

2025（令和7）年度 大阪府内地域連携プラットフォーム
分科会1企画 第3回共同SD研修 実施報告書

1. 開催概要

日 時： 2025（令和7）年12月19日（木）14:00～17:00
会 場： 阪南大学 あべのハルカスキャンパス
(大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1-43 あべのハルカス 23階)
テ ー マ： 令和7年度 私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）申請の
総括と展開戦略 ～多様な実践から学び、次なる連携のステージへ～

講 師：

大阪国際大学 IR室 課長代理 前河 泰正氏
大阪商業大学 大学運営企画室 サブ・マネジャー 平田 達也氏
大阪女学院大学 事務局 管理課 課長 橋本 健氏
大阪体育大学 庶務部 学長室担当 佐藤 浩輔氏
摂南大学 学長室 会計課 座安 綾乃氏
相愛大学 学長室 室長 山本 裕氏
関西大学 総合企画室 企画管理課 課長補佐 菅原 良将氏
桃山学院大学 大学統括部 学長室 課長補佐 森下 貴史氏

※大学名五十音順

司会・コーディネーター：

大阪経済大学 学生・キャリア支援部 部長 加藤 正憲氏
受講者数： 21大学 36名
企画運営： 大阪府内地域連携プラットフォーム 分科会1

2. 開催趣旨

私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）（以下、「タイプ3」という。）では、大学・行政・企業等が連携し、地域や社会の課題解決に資する実効的な取組を展開することが求められている。こうした趣旨を踏まえ、大阪府内地域連携プラットフォーム（以下、「大阪PF」という。）においても、大阪府内の各大学が協働しながら取組の検証と改善を重ね、事業成果の可視化と発展を図ることが重要となっている。

本研修では、令和7年度タイプ3申請を通じて明らかになった成果や課題を共有し、各大学が自らの取組を客観的に振り返るとともに、次年度以降の連携・展開に向けた方向性を検討する。

3. 到達目標

- (1) タイプ3申請を通じて明らかになった自大学の成果や課題を客観的に整理し、次年度に向けた改善点や取組方針を明確化できる。
- (2) 他大学の実践や視点を共有することで、自大学の取組を俯瞰的に捉え、新たな展開や連携の可能性を具体的に構想できる。
- (3) 今年度の大阪PFにおける取組を総括し、大学間で共有すべきポイントや次年度への共通課題を整理することができる。

4. 研修内容

内 容	備 考
開会・趣旨説明・スケジュールの確認	
情報提供 「タイプ3申請の振り返りと評価視点」	令和7年度申請を受けての情報提供（事務局）
事例紹介① 「タイプ3 実践共有」	各大学による事例共有（4件） ※質疑応答含め、最大10分程度 <講師> ・大阪国際大学 * ・大阪商業大学 * ・大阪女学院大学 * ・大阪体育大学 ・摂南大学 ・相愛大学 *は共同発表
休憩	
事例紹介② 「他タイプ（1、2、4および タイプ3・地域連携型）関連事例共有」	<講師> ・関西大学 ・桃山学院大学
グループワーク 「次年度に向けた展開の検討」	
全体共有・総括 (各グループ代表者発表+コメント)	各班代表（最大3分／グループ）による発表 司会・コーディネーターによるまとめ

5. グループ討議の共有（3グループを選出）

【Bグループ】

〔今年度の振り返り（強みの観点等）〕

- ・タイプ3に割り切って取り組んでいることが強みである。
- ・トップダウンが強みである。

〔改善が必要な点〕

- ・他タイプも積極的に申請する場合、「私学の独自性」という観点で相反するのではないかとの意見があった。
- ・加点が目的となった取組になりがちである。

〔次年度に向けた方向性と展開〕

- ・他タイプにも挑戦できればよい。
- ・属人化から移行し、仕組み化を図る。

〔新たな連携・展開〕

- ・他大学の施設を試行的に利用できるような仕組みがあればよいのではないか。
- ・補助金担当者等、同一部署間での人事交流が求められる。



【C グループ】

〔今年度の振り返り（強みの観点等）〕

- ・トップ同士のネットワークがあることは有意義である。
- ・担当者間や他部署間でのネットワーク交流があればよい。

〔改善が必要な点〕

- ・業務が属人化しがちである一方、個人が大学全体の動きを把握できるという意見もあった。
- ・大学の規模が大きくなるほど、ヒアリング方法等に工夫が必要である。
- ・部署内でのルーティン化ができていない。

〔次年度に向けた方向性と展開〕

- ・加点状況としては限界にきている。
- ・教育の質向上に重点を置く方向で検討したい。

【F グループ】

〔今年度の振り返り（強みの観点等）〕

- ・地域や課外活動において、学生が主体的に活動・実践できている点が共通の強みである。

〔改善が必要な点〕

- ・マンパワーが不足している。
- ・大学全体ではなく、個人プレーになりがちである。
- ・大学間で連携し、取組を属人的なものにせず、継続可能な仕組みとして発展させていく必要がある。

〔次年度の向けた方向性と展開〕

- ・事業の安定化を目指し、個人ではなく組織として動ける体制を構築したい。

〔新たな連携・展開〕

- ・PFでの加点のみならず、学生にとって意義のある取組につなげたい。
- ・補助金担当者等、同一部署間での人事交流が求められる。



6. 司会・コーディネーター総括

私立大学等改革総合支援事業は、各大学の強みを明確化し、教育改革を着実に推進していくうえで非常に有効な仕組みであるとともに、補助金獲得という側面においても重要な位置付けを持つ。

今年度は、昨年度と比較して大幅な点数アップが図られた一方、今後は上げ止まりといった状況が生じることも想定される。次の段階として、教育改革と地域連携のいずれに、またどのような形で重点を置いていくのかを明確にしていくことが重要である。

本日の事例共有は非常に有意義なものであり、今後も各大学が相互に連携しながら取組を深化させていくよう、このような機会を継続的に設けてていきたい。



7. 受講者アンケート結果

別紙のとおり

以上

**2025(令和7)年度 大阪府内地域連携プラットフォーム
分科会1企画 第3回共同SD研修 受講者アンケート集計結果**

回答者数 26名 / 受講者数 36名 回答率 72.2%

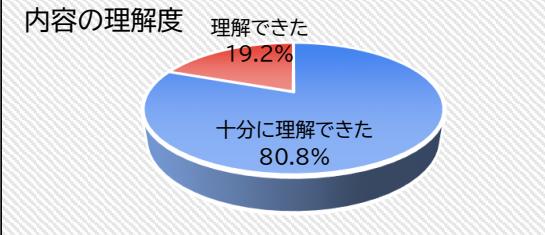
1. 本研修を受講した理由

①他大学の事例・状況把握、情報交換を通じて自大学の取組に活かすため(同内容:11件)
・他大学の事例・取組・状況を把握したい
・各校との情報交換を行いたい
・他大学の知見を参考に、自大学の次年度以降の取組改善・プラスチックアップにつなげたい
・コンソーシアムの中で協働可能な内容を確認したい
・改革総合支援事業(タイプ3以外を含む)に関する幅広い情報収集をしたい
②私立大学等改革総合支援事業「タイプ3(PF型)」への理解深化・申請・加点・補助金獲得のため(同内容:9件)
・タイプ3(PF型)の制度理解を深めたい
・実践事例を学び、申請や加点対策に活かしたい
・次年度・今後のタイプ3申請や補助金獲得を見据えた情報収集をしたい
・改革総合支援事業全体への知見を高めたい
③担当業務上の必要性(担当者・講師として)(同内容:5件)
・今年度／今年から担当者となったため
・分科会・共同SD等の担当として他大学の状況把握が必要だったため
・事例紹介・講師を務める立場であったため
・業務に直結する内容であったため

2. 研修内容について

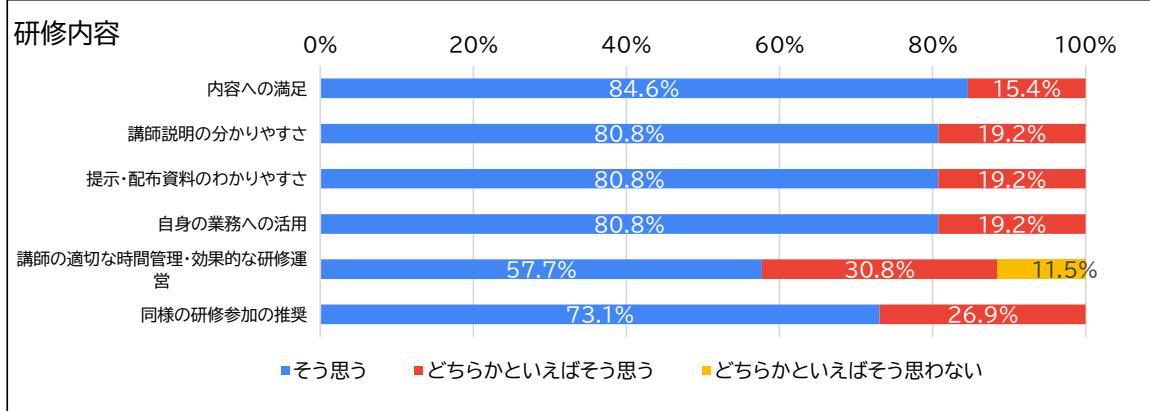
(1) 内容の理解度

単位:名	
十分に理解できた	21
理解できた	5
ある程度理解できた	0
あまり理解できなかった	0
	26



(2) 研修内容について

	そう思う	どちらかといえどそう思う	どちらかといえどそう思わない	そう思わない	単位:名
内容について満足している	22	4	0	0	
講師の説明は分かりやすかった	21	5	0	0	
提示・配布された資料は分かりやすかった	21	5	0	0	
研修で学んだことは、自身の業務に活かせる	21	5	0	0	
講師は適切な時間管理のもと、効果的な研修運営を行った	15	8	3	0	
同様の研修が開催されれば誰かに勧めたい	19	7	0	0	



(3)受講してよかったですと思う点

①他大学の事例・取組を具体的に知ることができた(同内容:10件)

- ・他大学の取組・実施体制・先進事例を具体的に知ることができた
- ・事例紹介が実務レベルで参考になった
- ・初参加でも各大学の取組を把握できた
- ・自大学で実践したい取組のヒントが得られた
- ・他大学のタイプ3申請状況・取組状況を把握できた

②タイプ3(PF型)以外のタイプや視点も学べ、視野が広がった(同内容:6件)

- ・タイプ3(PF型)以外のタイプの事例を聞けた
- ・設問や考え方を他タイプや学内改革に応用できそうだと感じた
- ・タイプ3以外にも目を向ける良い機会になった
- ・制度理解が立体的になった

③意見交換・情報交換(特に対面・ざっくばらんさ)が有意義だった(同内容:7件)

- ・対面ならではの率直な意見交換・情報交換ができた
- ・ざっくばらんに話せたことが、今後の大学間連携のきっかけになると感じた
- ・課題や悩みを共有できた
- ・グループワークを通じた交流が有意義だった

④他大学職員とのネットワーク形成・つながりができた(同内容:5件)

- ・他大学の同業務担当者と話す貴重な機会だった
- ・職員間のつながりが広がった
- ・今後の連携・協働につながる関係性を築けた

⑤今後の取組・連携・推進の方向性が明確になった(同内容:4件)

- ・他大学の情報を踏まえ、今後取り組むべきことが明確になった
- ・大学間連携や学内連携を一層強化する必要性を実感した

⑥特定事例・プログラム内容が特に参考になった(同内容:3件)

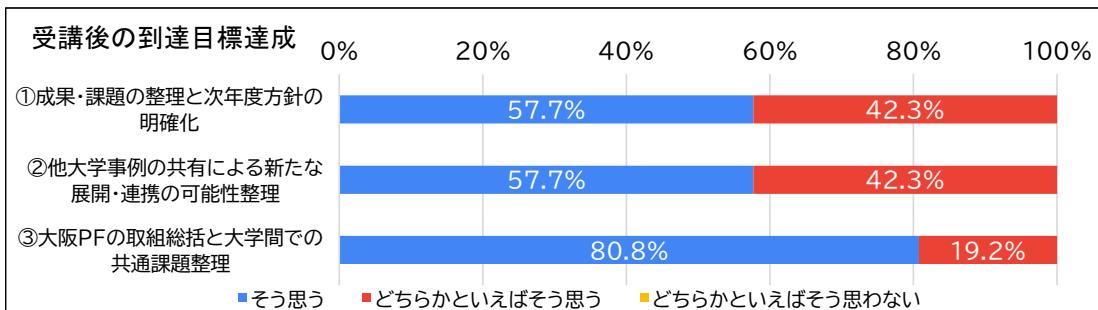
- ・授業科目の共同開講の事例
- ・事前調査に関する具体的な取組事例
- ・事例発表とグループワークの構成自体が有意義だった

3.到達目標達成度と受講後の効果

(1)受講後、到達目標を達成できたか

単位:名

	そう思う	どちらかといえどそう思う	どちらかといえどそう思わない	そう思わない
①成果・課題の整理と次年度方針の明確化	15	11	0	0
②他大学事例の共有による新たな展開・連携の可能性整理	15	11	0	0
③大阪PFの取組総括と大学間での共通課題整理	21	5	0	0

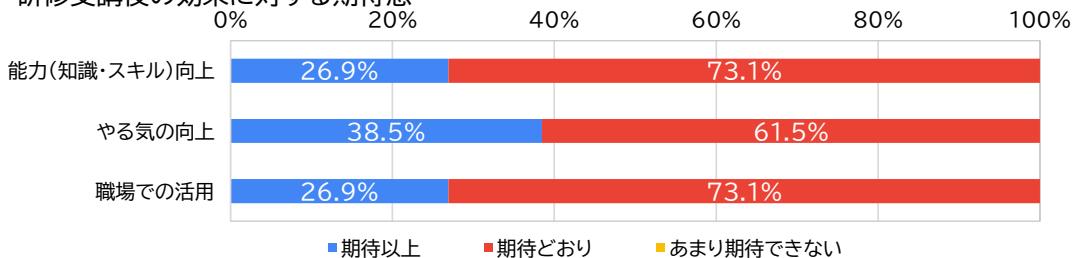


(2) 研修受講後の効果に対する期待感

単位:名

	期待以上	期待どおり	あまり期待できない	期待できない
能力(知識・スキル)向上	7	19	0	0
やる気の向上	10	16	0	0
職場での活用	7	19	0	0

研修受講後の効果に対する期待感



4. 開催時期

単位:名

適切	24
適切でない	2

〔希望する開催時期について〕 26

・学園の行事と重なったため

・年末は少し忙しいため、もう少しだけ早めの時期があります

開催時期



5. その他

(1) 本研修をよりよいものとするための提案

- ・説明パートが続き、休憩が短かったので、スケジュールを調整したら、より良くなると思います。
- ・毎回GW→発表という流れになっているので、もう少し事例紹介の内容について深掘りできるような時間や機会があればうれしいです。
- ・グループワークで最後に各グループの意見を発表する時間を設けていただいているが、意見を集約・結論を出す必要がありその作業に時間がとられるため、他大学様との貴重な情報交換の機会という観点から、発表時間をなくし意見交換の時間を長く設けることを提案させていただきます。
- ・1部・2部ともに同じ大学のテーブルでグループワークするため、それぞれの構成で席のローテーションなどがあると、話すことのできなかった大学と話す機会ができるため、可能であればおこなってほしい。
- ・マッチングできる内容をもつ大学同士の話し合う場を設けた方が良い。
- ・共同で取り組める設問のマッチングの仕組みとして、Slackをもう少し活用できれば良いのではないかと思う。

(2) 上記以外の感想や意見

- ・各大学の取り組みを共有いただけたことは、非常に有意義であった。また、普段はオンラインのため、ネットワーク作りに繋がりにくいので、こうして対面で会える機会は非常に有意義であった。
- ・対面の研修は、引き続き実施していただきたいです。
- ・今後も継続するのがよい。
- ・今回、3回目のSD研修でしたが、既に様々な事例を共有いただいているため、今後、各大学からの事例共有が難しくなることを懸念します。新たに共通のテーマを決めるなど、SD研修の方向を決める必要性があるのではないかと思います。
- ・実際の各大学の担当者からの取り組みに関する話を聞ける貴重な場でしたので、大変勉強になりました。

(3) 今後、大阪府内地域連携プラットフォームで実施してほしい研修

- ・ネットワークづくりとして、大学間のニーズ・リソースマッピング研修、大学間協働の成功要因分析ワーク、テーマ別ネットワーク形成セッションを行うことや、大学間のマッチングを進めるために大学間マッチング会、共同利用・共同実施の設計ワークショップ、大学間連携に関する研修を実施や、継続的な協働体制づくりとして、大学間協働の成果共有会、次年度の準備のためのワーク、ネットワーク維持を行う研修を希望します。
- ・他大学との情報交換を目的とした担当業務や部署ごとの研修など